

令和3年度 第1回米沢市SDGs推進協議会 会議録

1 日 時 令和3年7月6日（火）午前10時30分～

2 場 所 庁議室

3 出席委員

委員 副市長（会長）、伊藤優子副会長、安部里美委員、伊藤浩志委員、
五百川満委員、川野敬太郎委員、菅野紀生委員、香坂洋平委員、
斎藤美綺委員、佐々木恵委員、柴田正孝委員、須藤英喜委員、
曾根伸之委員、田畑広志委員、中川浩一委員、中澤未美子委員、
吉田正幸委員、四柳徹也委員 以上18名
（大和田浩子委員は欠席）

アドバイザー 谷中修吾先生

事務局 市長、企画調整部長、政策企画課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議録

（1）開会

（2）委嘱状交付

（3）市長あいさつ（要旨）

市 長 ただいま委員へ委嘱状の交付をさせていただいた。米沢市は置賜の中核としてあるわけだが、これから委員の皆さんの知恵を出していただきながら、益々磨きをかけ、若い人たちに残していけるよう地域づくりをしていかなければならないと思っている。皆さんもご承知の通り、SDGsは本当に聞き慣れた言葉になってきている。企業や各団体の皆様においても、SDGsを意識しながら、地域のために今後どう活動していくか考えていただいている。米沢市も、SDGsの理念に基づいてしっかりとした地域づくりを進めていかなければならないという思いで、谷中先生にもご指導いただきながら、今日まで、担当を中心にSDGsの取組について計画を立ててきた。おかげさまで、令和3年度には、環境省の地域循環共生圏づくりに取り組む団体や、内閣府のSDGs未来都市に選定していただいた。コロナ禍やオリンピックの中で、我が国や地域社会は大変な状況になっているが、いずれコロナが収束を迎えると同時に、日本社会はデジタル化、或いはAIといった社会へ進んでいく。世界的な規模で言うと、ゼロカーボンへの取組として二酸化炭素をどう削減していくかという世界的な課題にも、日本は取り組んでいかなければならない。その日本の構成市として、米沢市も取り組んでいかなければならない。今、SDGsが至る所で叫ばれているが、その先駆けとなったのは上杉鷹山公であるとして、最近の色んな研究から鷹山公の名前が出てきている。鷹山公が改革を伴いながら、今日の米沢の基礎を作った。経済面、社会面、環境面において鷹山公の取組が今に生きている。それらは、今取り組んでいる米沢ブランド戦略や健康長寿日本一を目指していくという取組

の中でも、しっかりと活かされていくのではないかと考えている。そして何よりもまちづくりで一番重要な課題として、ここに住む市民が明るく元気に過ごすことができるという環境づくりについて、しっかりと取り組んでいかなければならない。それが、SDGs の理念である、誰 1 人取り残さない、その地域づくり、社会づくりに繋がっていくものと信じている。米沢の未来都市としての方向性を皆様方と一緒に考え、この協議会で話したものを市民共有のものとし、これから取り組んでいくべきだと考えている。委嘱状交付にあたっての一言お願いも含めて挨拶とさせていただきます。

(4) 委員自己紹介
(各委員自己紹介)

(5) アドバイザー紹介
(司会より、アドバイザーの谷中修吾先生について紹介)

アドバイザー 皆様こんにちは。本日は東京からオンラインで参加させていただいている。今、委員の自己紹介を聞かせていただいた。ぜひ次回は対面でお話ししたいと思う。改めて第 1 回目の協議会開催への祝意を申し上げる。普段はビジネス・ブレイクスルー大学、BBT 大学という、大前研一氏が学長を務めている文科省認可の 100%オンライン大学で経営を教えている。また、地方創生の領域では、慶應義塾大学で地域デザインラボというものを立ち上げて、全国にデジタルマーケティングで発信するという活動をしている。地方創生の領域において、経営、都市工学、考古学と言った異色の組み合わせを専門領域としており、特に考古学では縄文時代の研究をずっとしてきた。これとビジネス論とはブリッジしていて、今日の SDGs の話に直結するが、自然と共存共生する縄文の思想哲学に基づく地方創生を私は追い求め続けている。今は特に、地方市町村の政策立案を多くやっていて、地方創生の領域を中心として、プロデューサー、アドバイザーを務めている。今回の SDGs という切り口だと、環境省で今年 9 年目となるが、各地域の SDGs の取組を総称する「グッドライフアワード」の総合プロデューサーを務めてきた。まさに地域とつながる循環共生圏を作るということを進めてきた。今回、米沢市は全国に向けて米沢の魅力を SDGs で発信するということになる。全国の企画の総合プロデュースをしているが、米沢市との御縁は、まちづくり人財養成講座で講師を務めさせていただいたのがきっかけで今回に至っている。冒頭に中川市長から話があったとおり、非常に歴史的に SDGs の礎があるのが米沢市だと外から見ても分かる。鷹山公の話があったが、全国に向けて発信できる SDGs の基盤があることで、全国的に見ても非常に素晴らしい取組になるポテンシャルを持っているのが米沢市だと思う。今日を皮切りに始まる米沢市の SDGs 推進を応援したいと思っており、また、協議会の皆様のイニシアチブに期待しているので、これを御縁によろしくお願ひしたい。

(6) 会長あいさつ(要旨)及び副会長の指名
(設置要綱第 6 条第 1 項により、米沢市副市長が会長を務める)

(副市長中央の会長席へ移動)

会 長　ここに(会場内に)「挑戦と創造」と書かれた額があるが、米沢市が掲げる SDGs は、この二つがキーワードである。挑戦、これには私なりの行動モデルがあり、メジャーリーグの大谷翔平選手だ。リスクを背負って二刀流に挑戦し、それを楽しんでいるということで、私たちも挑戦を楽しみたいというふうに思う。そして創造は、アドバイザーである谷中先生だ。谷中先生は、直感力が大事だとして、また偶発性を楽しもうともおっしゃっている。谷中先生も創造を楽しんでいらっしゃる。挑戦と創造を皆さんと一緒に楽しみながら、切り開いていきたいと思っている。忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

(設置要綱第 6 条第 2 項により、副会長に伊藤優子委員を指名)

(伊藤優子委員中央の副会長席へ移動)

(7) 議事 (要旨)

(設置要綱第 7 条により、会長が議長となり進行)

会 長　それでは議事に入る。本日の会議については正午までに終了したいので、議事の運営につきまして委員の皆さんのご協力をお願いしたい。なお、報道関係者の皆さまには一旦退席をお願いしたい。

(報道関係者退席)

事務局　((1) 会議等の公開について資料 1 に基づいて説明)

会 長　ご意見ご質問がなければ、本来この会議は開かれたものであるべきだと思うので、事務局案のとおり、会議を公開することとし、会議資料、会議録、参考資料についても、公開する取り扱いで良いか。

(異議なし)

(報道関係者入室)

事務局　((2) SDGs の推進について資料 2 に基づいて説明)

委 員　地域の未来を作るのは、若い世代であると考えている。そういう子どもたちを育てるのが教育の役割だと思う。そういう中で、プラットフォームというような提案があったが、子どもたちも参画できるような体制づくり、子どもたちの生の声なども聞いていただけるような体制づくりを、お願いできるかどうかをお聞きしたい。

事務局　小さな単位、例えば学校のクラス単位など、参画、登録できるような、仕組みを作っていきたいと思うので、次回以降提案させていただきたい。

委 員　もしプランができれば、各高校に紹介したいと思う。

委 員　各学校で様々取組を実際にやっている。そんなところをぜひ評価していただき、大人から褒めてもらうことで子どもたちはより一層、前向きに取り組んでいくことができるのではないかと思う。

会 長　実はいくつかの中学校から事務局に対し、SDGs を中学生に教えて欲しいという講師依頼が来ている。具体的にこういうことをしていこうという話をさせていただく機会を逆にいただきたいと思います。中学校や高校から数多く依頼があるといいと思っている。

委員 7 ページの最後の方にあるが、人材育成普及啓発について、市民の方を対象にしたワークショップ方式を2回開催とあるが少ないかなと思った。各学校から講演依頼、説明依頼がきているということなので、子どもたちの分野は広く普及啓発ができるような取組になるし、委員の自己紹介にあったように大多数の企業や事業者関係はマッピングできるような事業内容だと思う。そこで、多くを占める市民にどう理解していただき、協力していただけるかという取組が、やはり大事だと思う。ぜひ力を発揮していただきたい。

委員 第1は、市の上位計画であるまちづくり総合計画へのマッピングをどう進めていくかということだと思う。もうすでに、重要なところはマッピングされているので、他の計画との連動性、整合性をこれから作業的に詰めていかなければならない。一部に関わらせていただいているので、ぜひ市と一緒に進めていければいいと思っていたところである。また、企業サイドでの推進についても非常に意義を感じている。もうすでに先進的な企業では取り組まれているし、結果も出されている。明るい未来づくりという面では、企業の、明るい元気な未来づくりに資するものだと思う。そして企業理念や企業活動に非常に親和性が高い SDGs 計画だというように理解をしている。その推進に努めていきたいし、事例を幾つも作っていきたい。市民の方々とともに、企業にもぜひ普及を図っていければと思う。それから、世の中広いので、これに対して否定的な見方も出てきているが、当面のゴール目標としてこれが非常に有効だということを一途に見据えて進むことが大事だと思っているので、皆さんとともに一緒に取り組みたい。

事務局 行政の総合計画を含んだ SDGs の推進について、SDGs の考え方は、行政の様々な分野に関係してくるものと思っている。今後市の方で各施策を進めるにあたっては、この SDGs の 17 の目標、このどれに該当するかを常に意識しながら、進めていきたいと考えている。また、企業等を含めた、各団体の SDGs の普及啓発だが、先ほど説明にあった通り、まず谷中先生のご協力を得て講演会開催を考えている。そういう部分を含めて、講演会やワークショップ等に参加した方から、広く普及啓発を図っていけるようなことを考えている。またプラットフォームについて、登録制度、表彰制度ということで、本当に様々な企業団体等が SDGs の取組を進めているものと思っている。ただ、どういった取組がされているか、なかなか情報共有する場がないと考えている。そういう部分でこの協議会及びプラットフォームが、米沢市内の様々な SDGs の取組を情報共有できるような場所という形で進めていきたい。この内閣府の未来都市に選定されたということで、米沢市自体が全国的に SDGs 未来都市と認められたので、登録制度や表彰制度によって、市外にもいろいろ情報発信できると考えている。様々な取組を進めていきたい。

委員 今まで話を聞いた中で、会社関係は SDGs を取り組んでいるところが数多くあると思う。また、小中学校や高校については、これを機に SDGs にいろいろ取り組んでいただけると思う。やはり米沢市を作るのは子どもたちだと思うので、子どもたちにまず根づくような形で、児童会や生徒会を中心に SDGs、そして登

録とか表彰制度があるので、ぜひ若い方々から提案をいただけるように、お願いしたいというのが一つ。もう一つは、お年寄りの方がここに参加するのは、我々が考えている以上に難しいと思う。社会福祉協議会にお願いしたいのだが、要は、お年寄りの方にどうやってこの SDGs に参加してもらい、SDGs は楽しいといかに思ってもらうかが大事だ。普段やっていることを少し工夫してやれば、参加できるという概念ができるように、老人クラブや地域のコミュニティなどに働きかけて、市民総参加で行うような仕組みづくりが大事だと思う。そういう観点からすると、米沢市職員の方の、部局にこだわらない横断的な動きも一つ大切になると思う。最初のこの仕組みづくりのところが、この事業の明暗が分かれるところだと思うので、ぜひお願いしたい。

事務局　まず、市の部局の対応については、これまでも、この SDGs の提案をするに当たり、各部署と連携しながら進めてきた経過がある。もちろん単独でこの SDGs は取り組めない内容だと思う。17 の目標があるので、いろいろな分野にわたることから、庁内で一致団結して進めていく必要があると考えている。また、高齢者の方の取組も当然、必要な部分になってくると思っている。市でもそういう部署があるので、連携して取り組んでいければと考えている。

事務局　((3) 米沢市 SDGs 推進協議会について資料 3 に基づいて説明)
(意見なし)

事務局　((4) その他として、次回の第 2 回推進協議会の日程調整について、委員への説明及び依頼を行った。)

会　長　1 回目の会議ということで、概要説明、そして、これからもう少し具体的などころというところで、今日は楽しむというところまでは到達できなかったようで残念だが、次回、もう少し皆様からご意見をいただけるような提案をしたいと思っている。それでは、最後に谷中先生から、本日いただいたご意見、そして本市の取組等について、一言お願いできれば。

アドバイザー　本日はオンラインで恐縮だったが、皆さんの議論をオンラインながらご一緒させていただき感謝申し上げます。少し客観的なところになるが、今日のお話で、米沢市の内外で、SDGs の友達をたくさん作るという切り口で進めていくと楽しいと思う。プラットフォームや協議会などいろいろ名前はあがるが、要は市内でもいろいろな活動をしている方がいるし、また全国区で見ると、本当に各地で面白い取組もある。米沢市のオンリーワンのこの強みを生かし、外の皆さんも交流を求めているので、そういう意味で一緒にいろいろできれば面白いと思う。あと冒頭に、委員の皆さんからご指摘がいくつかあったが、何か新しいことというよりも、今米沢の中で行われている取組を見ると、とてもいい SDGs だったということがすごくたくさんあると思っている。それらを編集することで一気に、この SDGs が具現化されるのでは、と思いながら聞いていた。米沢のオンリーワンは、国内外で世界の最先端になる力をも持っていると感じている。SDGs においてどうしてもありがちなのが、番号でいろいろ分解してしまいがちで、もちろんこれはこれで必要なのだが、予算要求とか事業化とかマーケティングブランディングにどうしてもなってしまうところがあつちがある。この SDGs

の中に（谷中先生の説明資料の中に）「わし（鷹山公）を使いなさい」というように、米沢市独自のSDGsの中に思想哲学として埋め込めるべきものがあると思っている。そこがあると、SDGsの17個だけでなく18番19番20番と広がった時も、ぶれない軸があるというところはすごい強みだと思う。また今後アイデアが出てくると思うが、米沢のオンリーワンとして編集できるポテンシャルがすごくあると思うので、その意味でSDGsを切り口に一緒に楽しんでいけたらと思っている。私も微力ながら皆さんの力になればと、応援させていただきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

会 長　　いつも谷中先生のお話をお聞かせいただくと、後から元気が出てくる。そして、本当に明快にお答えいただいているので、多分もう見えてらっしゃるのだらうと思う。私たちはなかなか見えずに、委員の方への説明や会議を進めていくということで、すごく苦しいところがあるけれども、やはり谷中先生のお力をお借りして、米沢独自のSDGsを切り開いていきたいと思ってる。それでは本日の協議はここで終了させていただく。スムーズな議事運営にご協力いただき感謝申し上げます。

（8）閉会

以上